

# 時事新報

第十三百二十八號  
明治十九年七月十五日  
舊丙戌六月十四日

明治十九年七月十五日  
舊丙戌六月十四日  
午前四時五十六分  
木曜日  
丙子

八  
錢六百五十五銭九厘  
公債募集の好結果は商況

景氣とトするに足る可し

其幕か應する者少く左  
の様子ありき當初我輩は寧  
に空洞の

に金利の倒落しによるはる  
る證據に玄て甚ざ以て面白  
い當時の日本國又異なら

國にして國の資本固より  
並利ハ固より高き苦あるみ

落して遂に五朱の聲を聞く

あり、何れの時か金利の  
時か商況の回復をることを  
可らまじく、資金制約

内閣の海軍公使は寡母應する

する者にあらず日本の殖産 じょくさん 少に資本の用法あるあと

方に東京市上の様子を聞  
こしく持直し就中夏用太物

之がさめに地方の機場も  
又本年は~~暫~~<sup>さむし</sup>の上作みて

モ  
夫れ是れの影響にや舶來  
注文來りと横濱の引取も

おり、旁以て是れはいよ／＼  
ん今度の海軍公債に應ず

五分利又は六分利のものに  
玄て六分利七分利公債證  
式の額も下向の色を現す

新聞を見るともあらんと裏

軍公債の募集は極上の景  
る總計は千六百餘萬圓に

るもの多しと云ふ誠に驚  
より申せば目出度次第な  
うきやうじよ  
況盛衰の試金屋

天皇御の詠歌集と考て

卷之三

の冀望は全く空氣して唯落膽の外ある左れば最前我輩が説て作て日本の資本の五分利と安んするものに非ずと云ひ殖産商賣の世界尙ほ資本の用法ありといひを放つ可らず商賣工業の危険はコレヲよりも劇しコレヲ少しく回復の徵を現はしたりと云ふも大なる間違ありさ今日の實際に於て日本の資本家は商工の本業に金と放つ可らず商賣工業の危険はコレヲよりも劇しコレヲ之ふ囁るも平均半數の全治と得べしと雖ども今の商工の業は百發百敗利益を得ざるのみか元金をも抜去らるゝを常とす斯る危き錐先を冒さんよりも政府銀行の公債證書を買へば毎年の利子は僅より國庫より請取りて償約さへそば細く長く安樂に衣食すると母へし即ち國民より納る租税に依頼して生活するものあれば其安心はむかしの世謹の武士、今の政府の散官に異るらず云々の曾算ふて斯くは募集お應えたることならん此趣々見れる東京の市上にて太物その他織物の景氣上向など云ふも唯一時品ざれのためよ促がされたるまでの事よして當用の品を給せば又それざりにて富商大賈の土藏ふ物を仕入れ置くの勇氣はあることなるん抑も商況回復の事に就くは我輩も毎度世人と共に欺かれて赤面に堪へず今回も海軍公債の募集中は殆んど財源をたゞごとく昨日其結果を見て僅に感と解くを得たり天下理財の預言亦難しと云ふ可し